

# フレーズとフォーム

## 対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、演奏/レクリエーション

## スキル領域

聴覚認知、言語受容、言語表現、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、算数、音楽、シーケンシング、記憶と注意力の保持、粗大運動、チームワーク、想像力/即興能力、音楽鑑賞

## 目標

参加者は、

1. リズムのフレーズや音楽の形式、それらが音楽のなかでどのように使われているかを学ぶ。
2. いろいろなリズムを聞き、叩いてみる。
3. シンプルなリズムをいろいろ組み合わせてみて、音楽にする。
4. 歌をセクションに区切って学ぶ。
5. 言葉の音節のリズムを聞いて、ドラムで再現するようになる。

## 目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. いろいろなリズムパターンを聞き、ドラムでまねをする。
2. オリジナルのリズムの作り方がわかる。
3. フレーズやフォームの中の特徴的なリズムやリズムの組み合わせを聴きとりリピートする。
4. シークエンスをつくる、リズムスキルの向上に取り組む。

ドラムテーブル アクティビティ  
シリーズ – レッスンプラン  
発達障害及び自閉症の生徒対象

## レッスン 1



## 教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”マレット 1人2本ずつ
  - ※レモ CST ドラムテーブル 30”、22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩く。
  - ドラムテーブルアクティビティシリーズ
- Videoレッスン 1  
[comfortsoundtechnology.com/lessons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

## 音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

## 参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc. <http://remo.com/>

## 準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

## レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

本アクティビティはレッスン5「叩いてうたう」の後に行なうと円滑に進行することができます。

1. ドラムテーブルで、簡単なリズムパターンをやって見せることから始めます。  
例) 1・2・チャチャ、ジングルベル、ハッピーバースディなど。
2. ドラムテーブルを囲んでリズムパスを数回行ったあと、今度は参加者がリードして自分の作ったリズムパターンを渡していくようにする。そのとき、できるだけ簡単なパターンやフレーズにするように勧めましょう。
3. 歌の構成について話します。ドラムが演奏の中でどう使われるか説明します。異なるリズムのパターンやフレーズをつなげていかに歌を作るかを説明します。
4. 2つか3つの単純なフレーズを組み合わせる例を見せます。  
1・2・チャチャチャ、ジングルベル、エ・ミ・リー（人名）など。
5. “This Old Man”（数え歌の童謡）など良く知っている歌を叩きながら歌ってみましょう。
6. 歌なしで演奏してもらい、リズムを聴きます。
7. 能力レベルに応じて、歌のはじまり・中間・終わりや、歌詞・コーラスなど歌の構成（フォーム）について話します。
8. 3つのリズムのフレーズをはじまり・中間・終わりとして使い、ひとつの歌をつくってみましょう。  
例) はじまり＝ 1・2・チャチャチャ×3回  
中 間＝ ジングルベル×2回  
終 わ り＝ エ・ミ・リー×8回  
生徒に順番に演奏してもらいましょう。

## 応用編

1. 生徒に自分独自のフレーズや組み合わせを作ってもらいましょう。
2. 体の動きもとりにいれてみましょう。（足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩くなど）
3. 曲にテンポや音量の変化をつけてみましょう。
4. 「名前ゲーム」をやってみましょう。順番にグループのメンバーの名前でリズムを叩きます。